

浜の美味しい！盛りだくさん

第4回活ハマまつり初開催

中泊活ハマクラブが、9月10日(日)小泊漁協前お祭り広場で第4回活ハマまつりを開催し、新鮮魚介類や手づくり商品が販売される会場には、家族連れなど約1500人が来場しました。まつり開会では、駆け付けた町イメーজキャラクターやこども園こども園児らがダンスを披露し会場を盛り上げました。来場者へ感謝を込めて行われた振る舞いでは、下前漁協婦人部のイカ飯と小泊漁協婦人部の海鮮お好み焼きが用意され、長蛇の列となりました。

今年、目玉イベントとして、もずくわんこ早食い競争、氷乗り我慢大会、サザエつぼ焼早食い競争を行いました。氷乗り我慢大会では、氷の入った容器に足を入れ、3分間耐えられるかを競いました。大人も子どもも一緒に冷たさに耐え、会場からは声援が聞こえていました。サザエのつぼ焼早食い競争は、サザエ5個を殻から取って食べる早さを競いました。地元小泊の人たちが慣れた手つきでサザエを取っていく姿が目立ちました。

また、ステージでは、「GO/皆川」や「キューティーブロンズ」によるエンターテインメントショーで会場は盛り上がりました。来場者らは「食べ物は何れも美味しく、たくさんお土産を買ってしまった。サザエを取る練習をしています」と笑顔で話していました。



冷たいけど我慢



濱館町長も一緒にクルージング



サザエつぼ焼き早食い競争

両力士を目標に

第3回宝富士杯・阿武咲杯
争奪小中学校相撲大会

中泊町相撲協会が主催する第3回宝富士杯・阿武咲杯争奪小中学校相撲大会が8月27日(日)、町営相撲場で行われ、町内からは中泊道場が出場したほか、県内の児童生徒が出場しました。

団体戦は、小学校低学年と高学年、中学校の部で行われ、県内から計23チームが参加。小学校1年から中学校3年までの学年別個人戦には県内の児童生徒82人が出場しました。大会が始まると、保護者や仲間から大きな応援が聞こえ、子どもたちは気合いの入った立ち会いを見せていました。

中泊道場の結果は次のとおりです。

団体戦…小学校高学年の部第2位 中泊道場A

個人戦…小学校1年生の部第3位 成田聖悠／小学校4年生の部第3位 高松瑠伊／小学校5年生の部第2位 高杉正彩／小学校6年生の部第1位 奈良昂



心感・食感・体感イベントで楽しむ

第5回 中泊徐福まつり

今年で第5回目となった「中泊徐福まつり」は、8月27日(日)下前徐福公園で開催され、来場者約250人が心感・食感・体感イベントを楽しみました。

■体感イベント 「徐福フォーラム」

〈基調講演と郷土芸能発表〉

「徐福から学ぶ未来の中泊町」と題し、小泊の歴史を語る会長で徐福研究者である柳澤良知氏が基調講演を行いました。続いて、ゲストの田島孝子さん、華雪梅さんと一緒に「中国と日本の徐福」と題してシンポジウムを行いました。

また、網おこしはやし保存会、下前婦人会、小泊婦人会、中里三味線会、健康ダンス「べえ子ちゃん」と謎の美女軍団、花柳穂紀桜会が芸能発表を行い、会場を盛り上げました。

■食感イベント 「海山食感グルメ」

徐福が伝えた「食」をキーワードに町のグルメを選びめぐり、「旨いもの」コンテストを行いました。来場者らはカレーやイカめし・メバ焼きなどを食べた後、気に入った商品に投票しました。

■心感イベント 「徐福交流津軽半島音楽祭」

徐福が伝えたであろう「音楽」が時を越え、現代人の心を癒す音楽祭を開催。中里中学校の吹奏楽演奏を行いました。懐かしい歌やダンスも披露され、参加者たちは手拍子や一緒に歌ったり振り付けを真似たりして音楽祭を楽しんでいました。



ソーシャル・ビジネス・プロジェクト 中里高校SBP活動日誌

8月19日(土)、20日(日) 第2回全国SBP交流フェアに参加するため、三重県伊勢市に行きました。鱒ヶ沢高校と木造高校深浦校舎のSBPと一緒に青森津軽SBPとして発表しました。また、伊勢神宮外宮でメバ焼き！の販売を行いました。とても暑く、販売には苦戦しましたが、みんなで声を出し合ってがんばりました。

9月2日(土)、3日(日) 北海道函館市で開催された、はこだてグルメサーカスに中泊活ハマクラブのみなさんと参加しました。私たちはメバ焼き！、活ハマクラブはサザエの串焼きを販売しました。多くのお客さんに買ってもらい、中泊町のPRができたと思います。

9月17日(日) ふかうらSBPと一緒に青森市アスパムで開催されたうまい森青い森フェアに参加しました。ふかうらSBPのマグロ焼きは、かわいい一口サイズで人気がありました。負けずに声を出してメバ焼き！をアピールし、完売することができました。



日頃の思いを堂々と発表

第5回 中泊町
少年の主張大会

中泊町青少年問題協議会が主催する中泊町少年の主張大会が、8月28日(月)に総合文化センターパルナスで行われました。5回目を迎えた今大会から、中里高校の生徒も参加しました。同協議会の会長である濱館町長が「話すことに成功や失敗はない。この経験が大きな自信となって、今後の活躍に繋がることを期待しています」とあいさつし、始まりました。会場には町内小・中学生と教員、町民ら約320人が発表者の語る思いに耳を傾け、児童生徒らの主張に頷いたり、感心したりする来場者もいました。

■小学校の部

中里小6年 ^{のがみ のどか} 野上 和 「WANDER～友達と友達～」…
ワンダーという本に出会い、友達とは何かを考えさせられた。人を見ただけで判断するのではなく、まず相手を理解しようと話を聞き、思いやりを持って接することで本当の友達を作ることができる。

薄市小6年 ^{おさなひ りのり} 小山内 梨乃 「かわいい赤ちゃん」…
かわいい赤ちゃんと接し、なぜ虐待が起きるか不思議に思った。調べることで知った悲しい現実と「オレンジリボン運動」という子どもと親に声をかけ助け合う、優しい働きかけの存在を伝えました。



武田小6年 ^{たなか とよ} 田中 永喜 「命の重さ」…両親からもらった大切な命。いつかはなくなる命だが、悔いのないと思う存分生きることが幸せである。命の重さを知ることによって学び、それを世の中の役に立つようにすれば、いい世界に変えることができる。



小泊小6年 ^{たけはら まな} 竹原 真菜 「人と人とのつながりを深めるあいさつ」…みなさんは誰にでも「あいさつ」をしていますか？自分と他の人とのつながりを深めてくれるすてきな言葉。された人も、した人も元気になる「あいさつ」の大切さを伝えました。



■中学校の部

中里中1年 ^{みかみ こうへい} 三上 航平 「目標につなげて」…好きなテニスの研究を始めて、自分の弱点が分かった。好きだからこそ毎日続けられた。研究の成果を大会で出し、思い通りのゲーム運びで試合に勝つという目標を発表しました。



中里中2年 ^{なりた ないと} 成田 星斗 「今、やりたいこと」…念願



のサッカー部に入部。しかし、夏に3年生が引退し、1人になり廃部。卓球部に転部したが、本当にやりたいことはサッカーだと実感。サッカーへの情熱を語りました。

小泊中1年 ^{はせがわ ちか} 長谷川 千華 「心の声」…言葉は時として暴力にもなるため、慎重になっ



てしまう。しかし、仲の良い友達が悩んでいる姿を見て、心の声を言葉として伝えました。

小泊中2年 ^{あおやま ここね} 青山 心音 「四角い世界の歩き方」…イ



ンターネット・SNSには、便利な面と危険な面がある。いくつかの危険な事例を伝え、四角い世界に閉じこもらず、積極的にコミュニケーションの輪を広げることが大事だと発表しました。

■高校生の部

中里高校1年 「中里高校に入学して、私が伝えたいこと」…中里高校に入学し、学校が楽しいと思うようになった。少人数だからこそ生徒、先生との距離が身近に感じられるから。「中里高校が1人1人の目標の達成に向けて努力できる学校だ」ということを伝え、地域校である中里高校の必要性を訴えました。

中里高校2年 ^{こがわ まなか} 古川 愛華 「中里高校SBP同好会」…



中里高校SBP同好会では、これまでに「セレクトギフトボックス」、「メバ焼き！」を作ってきた。これからも、中泊町や高校の魅力伝え、少しでも地域活性化に繋がりたいと意気込みを語りました。